

[1]

(1) ゲーム  $\alpha$  の得点  $x$  の平均値が 7 より

$$\frac{7+6+8+a+4}{5} = 7$$

$$25+a=35$$

よって,  $a=10$

(2) ゲーム  $\beta$  の得点  $y$  の平均値が  $m$  より

$$\frac{0-4-1+2+b}{5} = m$$

よって,  $b=5m+3$

したがって,

$$s_y^2 = \frac{0^2 + (-4)^2 + (-1)^2 + 2^2 + (5m+3)^2}{5} - m^2$$

$$= 4m^2 + 6m + 6$$

	$x$	$y$	$x - \bar{x}$	$y - \bar{y}$	$(x - \bar{x})(y - \bar{y})$
A	7	0	0	$-m$	0
B	6	-4	-1	$-4-m$	$4+m$
C	8	-1	1	$-1-m$	$-1-m$
D	10	2	3	$2-m$	$6-3m$
E	4	$5m+3$	-3	$4m+3$	$-9-12m$
計					$-15m$

上の表より

$$s_{xy} = \frac{-15m}{5} = -3m \text{ であり,}$$

$z = py + q$  より,  $s_z^2 = p^2 \cdot s_y^2$ ,  $s_{xz} = p \cdot s_{xy}$  となるので

$$s_z^2 = p^2(4m^2 + 6m + 6), \quad s_{xz} = -3mp$$

$$(3) \quad s_x^2 = \frac{0^2 + (-1)^2 + 1^2 + 3^2 + (-3)^2}{5} = 4, \quad s_x = 2, \quad s_z = |p| \sqrt{4m^2 + 6m + 6}$$

であるので,  $x$  と  $z$  の相関係数が  $\frac{3}{4}$  より

$$\frac{s_{xz}}{s_x \cdot s_z} = \frac{3}{4}$$

$$\frac{-3mp}{2|p|\sqrt{4m^2 + 6m + 6}} = \frac{3}{4}$$

これを整理すると

$$-2mp = |p|\sqrt{4m^2 + 6m + 6} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

右辺は正なので,  $-2mp > 0$

つまり,  $mp < 0$  である。

①の両辺を2乗すると,

$$4m^2 p^2 = p^2(4m^2 + 6m + 6)$$

$p^2 > 0$  だから両辺を  $p^2$  で割ると,  $m = -1$

このとき,  $mp < 0$  より,  $p > 0$

また,  $b = 5m + 3$  より,  $b = -2$

以上より,  $m = -1$ ,  $b = -2$ ,  $p > 0$

[2]

$$(1) \quad f(0) = \int_a^b x^2 dx$$

$$= \left[ \frac{1}{3} x^3 \right]_a^b$$

$$= \frac{1}{3} (b^3 - a^3)$$

$$(2) \quad f(1) = \int_a^b (x-a)(x-b) dx$$

$$= -\frac{1}{6} (b-a)^3$$

よって,  $14f(1) + f(0) = 0$  のとき

$$-\frac{7}{3} (b-a)^3 + \frac{1}{3} (b^3 - a^3) = 0$$

$$7(b-a)^3 - (b-a)(b^2 + ab + a^2) = 0$$

$$(b-a)(6b^2 - 15ab + 6a^2) = 0$$

$a \neq b$  より

$$6b^2 - 15ab + 6a^2 = 0$$

$$2b^2 - 5ab + 2a^2 = 0$$

$a \neq 0$  より

$$2\left(\frac{b}{a}\right)^2 - 5 \cdot \frac{b}{a} + 2 = 0$$

$$\frac{b}{a} = 2, \frac{1}{2}$$

ここで,  $0 < a < b$  より,  $\frac{b}{a} > 1$

よって,  $\frac{b}{a} = 2$

(3)  $14f(1) + f(0) = 0$  のとき (2) より,  $b = 2a$

$$\text{よって, } f(t) = \int_a^{2a} (x-at)(x-2at) dx$$

$$= \int_a^{2a} \{2a^2 t^2 - 3atx + x^2\} dx$$

$$= \left[ 2a^2 t^2 x - \frac{3}{2} atx^2 + \frac{1}{3} x^3 \right]_a^{2a}$$

$$= 2a^3 t^2 - \frac{9}{2} a^3 t + \frac{7}{3} a^3$$

また,  $f(0) = \frac{7}{3} a^3$  より

$$y = f(t) - f(0)$$

$$= 2a^3 t^2 - \frac{9}{2} a^3 t$$

$$= 2a^3 \left( t - \frac{9}{8} \right)^2 - \frac{81}{32} a^3$$

$a > 0$  より,  $y$  の最小値は,  $-\frac{81}{32} a^3$

よって,  $-\frac{81}{32} a^3 = -6$

$$a^3 = \frac{64}{27}$$

$a$  は実数より,  $a = \frac{4}{3}$

[3]

(1)  $\vec{a}=(1, 1, 0), \vec{b}=(0, 1, 1), \vec{c}=(1, 2, -1)$  より  
 $\vec{a}\cdot\vec{b}=1\cdot 0+1\cdot 1+0\cdot 1=1, \vec{a}\cdot\vec{c}=1\cdot 1+1\cdot 2+0\cdot (-1)=3,$   
 $\vec{b}\cdot\vec{c}=0\cdot 1+1\cdot 2+1\cdot (-1)=1$

(2) M は平面  $\alpha$  上の点より, 実数  $s, t$  を用いると  
 $\vec{OM}=\vec{s}\vec{a}+t\vec{b}$   
 $= (s, s+t, t)$  と表せる。

このとき,  $\vec{CM}=\vec{OM}-\vec{OC}$   
 $= (s-1, s+t-2, t+1)$

CM  $\perp$  (平面  $\alpha$ ) より,

$$\begin{cases} \vec{CM}\perp\vec{a} \\ \vec{CM}\perp\vec{b} \end{cases} \quad \text{つまり} \quad \begin{cases} \vec{CM}\cdot\vec{a}=0 \\ \vec{CM}\cdot\vec{b}=0 \end{cases}$$

これらを整理すると,  $\begin{cases} 2s+t-3=0 \\ s+2t-1=0 \end{cases}$  である。

これを解くと,  $s=\frac{5}{3}, t=-\frac{1}{3}$  となり

$$\vec{OM}=\left(\frac{5}{3}, \frac{4}{3}, -\frac{1}{3}\right)$$

よって,  $M\left(\frac{5}{3}, \frac{4}{3}, -\frac{1}{3}\right)$

(3) D は直線 CM 上より, 実数  $k$  を用いると

$$\vec{CD}=k\vec{CM} \text{ と表せる。}$$

よって,  $\vec{OD}=\vec{OC}+k\vec{CM}$   
 $=\left(\frac{2}{3}k+1, -\frac{2}{3}k+2, \frac{2}{3}k-1\right)$

このとき,  $\vec{AD}=\left(\frac{2}{3}k, -\frac{2}{3}k+1, \frac{2}{3}k-1\right)$  であり,

$|\vec{AC}|=|\vec{AD}|$  より, 両辺を2乗すると

$$2=\frac{4}{3}k^2-\frac{8}{3}k+2$$

これを解くと,  $k=0, 2$

点 D は点 C と異なる点なので,  $k=2$  となり

$$\vec{OD}=\left(\frac{7}{3}, \frac{2}{3}, \frac{1}{3}\right)$$

よって,  $D\left(\frac{7}{3}, \frac{2}{3}, \frac{1}{3}\right)$

(4)  $\vec{AC}=(0, 1, -1), \vec{AD}=\left(\frac{4}{3}, -\frac{1}{3}, \frac{1}{3}\right)$  より

$|\vec{AC}|=|\vec{AD}|=\sqrt{2}, \vec{AC}\cdot\vec{AD}=-\frac{2}{3}$  であるから

$$S=\frac{1}{2}\sqrt{|\vec{AC}|^2\cdot|\vec{AD}|^2-(\vec{AC}\cdot\vec{AD})^2}$$

$$=\frac{1}{2}\sqrt{2\cdot 2-\left(-\frac{2}{3}\right)^2}=\frac{2\sqrt{2}}{3}$$

[4]

(1)  $a=r$  のとき, 円 C の方程式は  $x^2+(y-r)^2=r^2$  であり,

このとき  $y=x^2$  との交点を考えると

$$y+(y-r)^2=r^2$$

$$y(y-2r+1)=0$$

よって,  $y=0, 2r-1$

ここで,  $y=x^2$  より  $y\geq 0$  となるので, 共有点が一つのみになるのは,  $2r-1\leq 0$   
 $r>0$  より,  $0<r\leq\frac{1}{2}$

(2) 円 C が不等式  $y>0$  の表す領域に含まれるための必要十分条件は, 円の中心の  $y$  座標が, 正でかつ円の半径より大きいことである。つまり  $a>r$  である。

(3) 円 C の方程式は  $x^2+(y-a)^2=r^2$  であり,

このとき  $y=x^2$  との交点を考えると

$$y+(y-a)^2=r^2$$

$$y^2-(2a-1)y+a^2-r^2=0 \dots\dots ①$$

共有点がちょうど二つになるのは, 次の2通りのときである。

(I) ① が正の重解をもつ。

(II) ① が正の解と負の解を1つずつもつ。

$$f(y)=y^2-(2a-1)y+a^2-r^2 \text{ とすると } f(y)=\left(y-\frac{2a-1}{2}\right)^2+a-\frac{1}{4}-r^2$$

(I) となるのは,  $\begin{cases} \frac{2a-1}{2}>0 \\ a-\frac{1}{4}-r^2=0 \end{cases}$  となればよい。

つまり,  $\begin{cases} a>\frac{1}{2} \\ a=r^2+\frac{1}{4} \end{cases} \dots\dots ②$

(II) となるのは,  $f(0)<0$  となればよい。

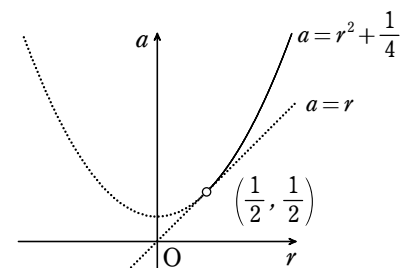
つまり,  $a^2-r^2<0$

$$(a-r)(a+r)<0$$

$$-r<a<r \text{ これは (2) より } a>r \text{ なので不適。}$$

よって, 求める  $(r, a)$  の範囲は,

右図の実線部分である。



(4) (2), (3) より (i) を満たすのは  $\begin{cases} a>\frac{1}{2} \dots\dots ③ \\ a=r^2+\frac{1}{4} \dots\dots ④ \\ a>r \end{cases}$  のときである。

また,  $a+r+s>s$  より, 円 C' は不等式  $y>0$  の表す領域に含まれる。

よって, (ii) を満たすのは ③, ④において,  $a$  を  $a+r+s$  に,  $r$  を  $s$  におきかえればよいので,

$$\begin{cases} a+r+s>\frac{1}{2} \dots\dots ⑤ \end{cases}$$

$$\begin{cases} a+r+s=s^2+\frac{1}{4} \dots\dots ⑥ \end{cases}$$

④, ⑥より

$$r^2+\frac{1}{4}+r+s=s^2+\frac{1}{4}$$

$$s^2-s-r(r+1)=0$$

$$(s+r)(s-r-1)=0$$

$$s=-r, r+1$$

$s, r$  はともに正より,  $s=r+1$